

幸田弘子(随筆)



三田村雅子
(解説) 早稲田大学文学部教授



源氏語り五十四帖

そして、光源氏亡き後の物語へ――

「後継者」と目される薫と匂宮、

対照的な性格の二人の成長を描きながら

宇治十帖の扉が開きます

身近な言葉で難解な古典文学を現代に蘇らせる

三田村雅子さんの解説。

そして、紫式部の名文をへ生きた古典の言葉で語る

幸田弘子さんの朗読でお楽しみください。

第四十回

白宮・紅梅 ◆二〇〇七年十二月二日(日)

第四十一回

竹河 ◆二〇〇八年一月十三日(日)

第四十二回

橋姫 ◆二〇〇八年三月十六日(日)

十四時開演(十三時三十分開場)

会場 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 料金 全席指定(各回) 2,500円
 3回連続券 6,600円
 発売日 メンバース優先:9月8日土
 一般:9月16日日
 前売・電話予約 財団チケットセンター
 TEL 048-858-5511



三田村 雅子
フリス女学院大学教授

東京生まれ。早稲田大学卒業。現在、フリス女学院大学文学部教授。日本文学協会委員長。NHK教育テレビ「古典への招待」講師を十八年間勤めた。専攻は源氏物語、枕草子、中世物語。源氏文化と天皇制についても関心があり、雑誌「新潮」に「(記憶)の中の源氏物語」を連載中。著書に「源氏物語 感覚の論理」、「枕草子 表現の論理」(有精堂)、「源氏物語 物語空間を読む」(ちくま新書)、「草木のなびき 心の揺らぎ 源氏物語絵巻を読み直す」(フリス・ブックス)があり、共著に「源氏物語絵巻の謎を解く」(三谷邦明との共著、角川書店)、「源氏物語を読み解く」(秋山虔との対談、小学館)がある。



幸田 弘子
女優

東京生まれ。NHK東京放送局に入り、放送、舞台で活躍。主演した二番目作「首長討ち」で「女優」又は「文壇大賞」賞、イタリヤ賞、大賞を受賞。舞台で古典から現代文学作品までの朗読を続け、1977年から毎年「幸田弘子の会」を開催。樋口一葉を中心に、「源氏物語」や泉鏡花、森鴎外、夏目漱石、堀辰雄、瀬戸内寂庵の作品を、古典から現代まで幅広い作品を舞台で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81、82、84年と続けて芸術祭優秀賞を受賞。さらに84年度芸術祭文壇大賞、85年毎日芸術賞、90年芸術祭賞、02年藤村記念賞を受賞。国語審議会委員を三期つとめる。03年秋の叙勲において、旭日小綬章を受賞。98年より「源氏物語」のおくのはやまなどによる「古典を読む」余の連続公演も開始。01年から源氏語り五十四帖」と題して「源氏物語」の原文を、彩の国さいたま芸術劇場、年六回、九日間で読み始めた。05年より、終井沢大賞ホールにて、堀辰雄を中心とした朗読と音楽の会を開催している。

源氏語り 五十四帖

出演者プロフィール

「あらすじ」

光源氏亡き後、その子孫には光源氏ほどの冒険は語りません。それほど偉大な人物を失った虚脱感は大きかったのです。その後、長く苦しみとして、匂宮と薫はそれぞれ人気を集めています。匂宮には誠実さが、薫には華が足りません。出生の秘密を抱える薫は女性に積極的になれず、対照的に匂宮は極端に色好みで移り気です。その匂宮が柏木の弟紅梅大納言家の宮の御方に惹かれる物語を描いたのが紅梅巻です。父大納言は二番目の姫君の婚に匂宮を迎えたいと思っていました。ところが匂宮は、話題に登らない北の方の皇子(薫宮の娘)の御方に惹かれて、このあやにくな恋に夢中になりそうなの気配だったので。

第四十一回 竹河

間白髭黒がなくなった後、玉鬘は残された二人の処遇に頭を悩ませていました。長女はとりわけ美しかったので入内を勧められていたのですが、玉鬘は若き日の冷泉帝への憧れを思い出して、冷泉院に入内させてしまいます。幸い、院の寵愛は深かったのですが、そのことがかえって、周囲の妃たちの嫉妬を呼んで長女は苦勞の多い宮仕え生活を送ります。この結婚に不満を抱かれた帝には、妹中君を尚侍として林なりにさしあげて、寵愛を獲得します。美しかった姉よりも妹の方が幸せを獲得するなりゆきに、わりきれないものを感じる娘の母とのすれ違いを、薫の長女への片想いととも語ります。

第四十二回 橋姫

不遇の皇子八宮の、生から説き起こされた政治的に不遇、北の方も失い、都の邸も火事で失って宇治の別荘に残された娘二人と住んでいました。その八宮のもとに、薫が仏道修行のためにしきりと訪れるようになったのです。薫はふとしたことで八宮の二人の姫君が音楽を合奏している所を覗き見、二人の姫君に惹かれてしまいました。さらにこの邸には薫の出生の秘密を知り、柏木の遺言を所持する芥君もいることを知らされると、その秘密を守るためにも、姫君たちの人を妻としたいと多え始めます。特に考え深い八宮に惹かれた薫は、大君との結婚を夢見て、以前よりも頻りに宇治を訪れ始めます。

源氏語り五十四帖(二〇〇八年度予定)

- 第四十三回 推本(しいがもと) 第四十六回 早蕨(さわらび)
- 第四十四回 総角(しあげまこ) 第四十七回 宿本(しやどりま)
- 第四十五回 総角(2) 第四十八回 宿本(2)

※都合により変更になる場合がございます。

埼玉県芸術文化振興財団 TEL.048-858-5500 (FAX.048-858-5511)



彩の国さいたま芸術劇場 048-858-5511
埼玉会館 048-829-2471
熊谷会館 048-523-2535
公式ホームページ <http://www.saf.or.jp/>
チケットセンター 048-858-5511

メンバーズ入会受付中

メンバーズには豊富な特典がいっぱい!
財団の自主公演(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館)にご利用いただけます。
■メンバーズ料金(3,000円以上のチケットは10%OFF)
■優先予約(一般発売よりも先に人気公演のチケット発売)
■チケット購入はキャッシュレス(チケット代、年会費は口座から引落)
■当日券もキャッシュレスでOK
■ポイント制度(チケットを購入するとポイントがたまります。たまったポイントはチケットと交換)
その他、様々なメンバーズ特典があります。お問い合わせ:メンバーズ事務局 TEL.048-858-5507

ご案内

- 内線有線「日本郵政」下車徒歩7分
- JR東武東上線「池袋駅」より徒歩10分「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車
- 新大宮バス「上線文庫点」より徒歩200m
- 劇場は開演の30分前です。
- やむを得ず事情で公演内容の一部を変更することがございますので、ご了承ください。
- 未成年者の入場はご遠慮ください。
- 2歳以上の未成年者に対しては親原のご予約を承ります。
(お子様一人につき1,000円のお断り金がかかります。)
公演一週間前までに【(株)コアム(TEL.048-858-7888)】までお申込みください。(受付時間:月～金9:00～18:00、土9:00～12:00)定員になり次第締め切らせていただきます。
- 駐車場(有料)は自費で借りがございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

JR埼京線池袋駅が5分徒歩約29分、徒歩約23分、新橋駅が徒歩約30分